

補 助 金 の 制 度 が あ り 、 義 務 教 育 の 終 わ る ま で	金 が 使 用 さ れ て い る 。 流 山 市 で は 、 医 療 費 の	や ト イ レ で あ っ て も 上 下 水 道 の 整 備 に は 、 税	毎 日 、 当 た り 前 の よ う に 使 用 し て い る 風 呂	こ と を 報 道 で 知 っ た 。 。	千 億 円 に も 上 っ て お り 、 過 去 最 高 を 更 新 し た	が あ る 。 昨 年 度 の 日 本 の 税 収 は 、 一 〇 六 兆 六	所 得 税 や 法 人 税 な ど 税 金 の 中 に は 様 々 な 種 類	「 税 金 」 と 一 言 で 言 っ て も 、 消 費 税 を 始 め	わ れ て い る か を 考 え さ せ ら れ る 機 会 と な っ た	も た ら す 生 活 へ の 影 響 や そ れ が ど の よ う に 使	感 じ た 。 私 に は 、 今 回 の 選 挙 を 通 じ て 税 金 が	き 、 消 費 税 の 引 き 下 げ と い う 言 葉 に は 魅 力 を	る も の で あ っ た 。 マ ニ フ ェ ス ト を 比 較 し た と	化 な ど と い っ た 各 政 党 の 政 策 に つ い て 注 目 す	す る 上 で 身 近 に 感 じ る 消 費 税 や 高 等 教 育 無 償	れ た 。 私 に は 、 ま だ 選 挙 権 が な い も の の 生 活	先 日 、 第 二 六 回 参 議 院 議 員 通 常 選 挙 が 行 わ	流 山 市 立 南 部 中 学 校 倉 知 咲 季	よ り 良 い 日 本 を 築 い て い く た め に
--	--	--	---	---	--	--	--	---	--	--	--	--	--	--	--	--	---	---	---

も		と	て	身	憶	新	生	新	が	距	路	の	か	郷		私	警	る	の
反	税	機	お	近	に	型	活	し	か	離	に	だ	ら	市	私	た	察	。	間
対	金	能	り	な	新	コ	の	い	か	は	大	が	を	を	の	ち	や	事	は
だ	に	し	、	と	し	ロ	利	橋	か	短	渋	、	結	家	の	の	消	件	数
。	つ	て	国	こ	く	ナ	便	が	か	い	滞	江	ぶ	の	た	防	や	や	百
い	い	い	の	ろ	、	ウ	性	完	か	も	が	戸	橋	近	め	の	消	事	円
い	て	る	社	こ	こ	イ	が	成	か	の	起	川	く	に	に	活	故	、	で
う	「	か	会	で	の	ル	向	す	か	の	き	を	で	祖	な	動	、	医	医
の	増	ら	保	目	歳	ス	上	れ	か	、	て	超	は	父	さ	と	病	療	機
で	税	こ	障	に	出	の	す	ば	か	交	い	え	、	の	れ	い	気	関	に
は	「	そ	制	見	も	蔓	る	、	か	通	る	る	数	家	る	う	や	怪	か
な	と	実	度	え	税	延	こ	交	か	渋	。	る	年	に	も	の	我	の	か
く	聞	現	の	る	金	に	と	通	か	滞	祖	も	前	場	、	税	の	合	か
、	け	で	基	形	で	伴	と	解	か	が	父	の	か	合	金	に	に	に	こ
税	ば	き	盤	で	賄	う	な	消	か	少	宅	あ	ら	に	よ	。	。	お	と
金	「	の	が	税	わ	給	。	さ	か	な	ま	た	流	っ	っ			け	も
の	何	で	し	金	れ	付	ま	れ	か	い	の	た	山	っ				る	で
使	が	あ	っ	が	て	金	め	い	か	る	に	め	市	っ				。	き
い	何	る	か	使	い	は	に	た	う	。	道	に	と	っ					
道	で	る	り	わ	る	記	、	。					三	て					

を理解すること大切だと思ふ。税金が、正しく真に住民のために使われていくこと、なり難いのではないかと考える。生活環境を改善するためには、必ず費用がかかる。現実から目を背け、空想のみでは社会は改善されていかない。私たちの暮らしを支えるため、整備には、税金は必要不可欠なものである。これからも日本は、発展し続けなければならぬ。本当に自分たちの暮らしを良くしていくためには、税収なくして社会保障制度の充実や生活基盤が改善できるとは考え難い。確かに納税というのは、単純に自分の金銭が減るため抵抗が生じるものとなる。しかし、一人ひとりが平等に負担すること、誰もがその恩恵を平等に受けられる社会になっていかなければならない。

私は、今後の日本の将来を背負っていく一員として、税金について正しく学び理解してより良い日本を築いていくため、国民として

の義務を果たしていききたい。